

公孫樹

2022年9月発行

第128号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726

心臓が回復しました。応援、ありがとうございます。さらに健康な身体をつくり、死ぬまで元気に、務めさせていただけよう精進努力してまいります。これからも火・金曜日は八尾に通いますので留守ですが、よろしくお願いします



西里定一 作

「ペースメーカーを入れる必要はありません。安心して下さい」

元気にお盆、そして二四日の初盆精霊送りを務めさせていただくことができました。九日から一四日までの棚経は、副住職との分担により務めさせていただきました。副住職はコロナ禍の東京暮らしであることから、二年間遠慮させていただいたのですが、今回、一緒に務めさせていただいて、本当に助かりました。夢のように楽をさせていただきました。

この二年間の一人務めは、脳梗塞後のこともあり、かなりの身体負担になってきていたことを改めて実感しました。この間、倒れることなく無事に務めさせていただけたのも、車の運転をはじめ、いろいろとお心遣いやご配慮をいただいた皆様方の「お護り・お救い」の結果だと改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さらに三ページに報告させていただきましたとおり、心臓へのペースメーカー処置は必要なくなりました。心臓が回復したのです。なんとありがたいことでしょうか。八尾のクリニックでの『内臓活性化療法』の日々の実践の結果です。毎回報告させてきていただいたように、良くなったのは心臓だけではないのです。

八月二〇日、クリニックで開かれた「生きる力をつける健康講座」では、私が体験発表をさせていただきました。院長先生が配布用を作成してくださいました資料は「脳梗塞の再発予防治療で多くの症状がよくなった」がテーマです。良くなった症状を分類し、表にしてくださいました。「眼科、耳鼻科、整形外科、泌尿器科、呼吸器科、内科、その他の症状」と、全部で二七項目に上りました。

講座にはクリニックの患者さんとはもとより、病院の先生、研究者も参加しておられました。この健康講座の目的は、病気になった経緯を振り返り、再発を防ぐために何が必要か、私自身がしっかりと理解することにあります。また私の報告を聞かれた方が、ご自身の生活を見つめなおし、病気の治療や予防の参考にさせていただく…という役割を持っています。

貴重な体験となりました。これからも厳しくわが身を見つめ続けます。

(健康講座に来ていただいた先生方は三ページに紹介)

9月の行事予定



7日(水)	写経会	午前10時～
14日(水)	落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後7時～ 一会館にて 無料
21日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 参加費 500円
28日(水)	地蔵講 男性詠唱隊	午後1時半～3時 午後7時半～9時
23日(金)	秋彼岸法要	午前10時～
3日・17日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円
10日・24日(土)	英語歌クラブ 講師 八木和美先生	午後1時～3時 一会館にて 参加費1回 500円 テキスト月 500円
8日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 一会館にて 参加費1回1000円
9日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 大人500円 一会館にて

八月になっても猛暑だ、豪雨だ、崖崩れだとの報道：
。「何ということだ」と思っていたところ、こんな
お手紙をいただきました。《朝はヒグラシが激しく鳴
き出し目覚まし時計がいきりません。涼しい風を満喫し
ています》と。嬉しくなりました。

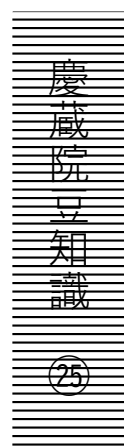
お盆です。精霊棚に盆提灯、盆踊り。慶蔵院では
「かんこ踊り」が行われます。頭の被り物は、白馬の
尻尾を長く切ったものでシャグマといいます。スゲで
作った腰蓑をつけ、晒木綿一反を腰に巻きつけ、太鼓
をつけて踊ります。

以前は、長男が踊るものと定められていました。中
老の低い音頭の声に合わせて静かで、ゆっくりとした
踊りの中に、強い意志と情念を持って踊り続けます。

初盆のお家にとっては、「念仏踊り」によって初盆
精霊が送られることとなります。「今」という一瞬を
完全に燃焼させる。その生き方を継続すれば、後悔す
ることなく、一生を、永遠の中に生き抜くことができ
る。他者の死を悼みつつ、自分の生を見つめなおし、
顧みるのが、「かんこ踊り」の心なのでしよう。

コロナのために全ての行事が中止されて残念です。
時代の流れと言うものもあるのでしようが、先人の思
いを受け継ぎ、伝承を続けることを通して、私たちに
は忘れてはならない、「こころ」の学びを、後世に伝
えていくことができるのではないのでしょうか…。

(栄子)



浄土宗新聞を無料で お渡しします！！

9月号読みどころ
3ページ 新刊本の紹介です。日本の仏教界が戦争にどの
ように加担していったかについて、著者が全国寺院に残る
戦争の痕跡を調査し、文献を読み解いた歴史ドキュメン
ト。「仏教の大東亜戦争」です。植民地政策に乗じて従軍
僧を派遣し、多くの寺を建立したり、また戦争を正当化す
る「戦争教学」という教えが広められたというのです。



心安らか日暮しのためお念仏
奥田 悦生
（「知恩」誌九月号「柳壇」に掲載）



落語
住職 慶蔵院
出演 法話
南遊亭栄次

落語会「いちご亭」 無料で

（面白かったらおひねりをお願いします！）
第2水曜 十四日 午後7時

慶蔵院「一会館」にて



おしらせとおねがい



※秋彼岸のお塔婆の申し込みは9月10日（土）
までに寺世話さん又は直接寺の方までお願いしま
す。

※慶蔵院では、すでに伊勢の「欣浄寺」復興支援
浄財募金に取り組み、皆様お志をまとめさせてい
ただきました。その節は本当にありがとうございました。
このほど浄土宗宗議会に、伊勢教区より
請願が提出、可決され、欣浄寺復興基金が全国の
寺院に呼びかけられることになり、「勧募のお願
い」文書も届きました。この対応につきまして、
すでに皆様には浄財を寄付していただいております
ので、五役会議にて対応を協議し、護持会費か
らの捻出をと考えます。金額等は改めて報告させ
ていただきます。

なお、この際、新規に、一口500円検討の浄
財募金にに応じていただける方がございましたら、
秋彼岸のお塔婆の申し込みに添えて、お申し出
いただければ幸いに存じます。よろしくお願いた
します。

住職の健康回復への道のり (八)

一月から治療をしていただいているクリニックからの紹介で、八月二
日、八尾市徳洲会総合病院の総長、福田貢先生から、心臓の現時点での
再検査をしていただきました。結果は、「心臓は美しいです。しっかりと
動いています。血流も問題ありません。ペースメーカーを入れる必要は
ありません。安心してくだされい」と言っていたいただきました。

十二月には、血管に石灰が詰まってポロポロになっているからカテ
テルが必要…と心配された心臓でしたが、カテーテルをする必要もな
くなったのです。

脈拍はまだ40台の数値が出る事が多く、徐脈であることには変わ
りありません。脈がとぶ不整脈ものこっているのですが、これに関し
ても徳洲会総合病院では、「あなたの場合、気絶したこともなく、動悸
やめまいが起こることもないので、この数値で問題ありません。実は自
分もそうなのです。競争しましょうか… あっ47ですね。では私は
… あっ私も47です。同じですね。ヨガの先生やお坊さんにはこうい
う人があるのです。脈がとぶことも同じです。心配いりません」と言っ
ていただきました。ひと安心です。それにしてもいただいたこの奇跡、
感謝して、大切に守り抜きたいと思えます。

八月二〇日、体験発表を聞きに来てくださった先生方の紹介

前聖路加国際病院院長 現東京医科大学茨城医療センター院長

福井次矢 先生

DIPLEX JAPAN名誉理事長

別府宏園 先生

関西医科大学名誉教授

四方伸明 先生



すべったり
転んだり
人間の一生も
すべったり
転んだり
その内に
上手になる
中野善英と人

私が八尾のクリニックで受けている治療は、内臓調整。お腹を温めることにより内臓を活性化させ、免疫力をたかめていく治療です。先生が臨床的に到達した理論は、健康な人はお腹が柔らかい。とくに上腹部の柔軟性が健康体の重要なバロメーターというのです。なぜ上腹部の柔らかさが大事なのかというと、横隔膜の上下動がスムーズになる為だそうです。

深く長く息をはきます。吸うのではなく、呼吸です。すると横隔膜は上に上がる、このときお腹が固いと上がらない。ましてや食べ過ぎの状態であれば、しっかりと呼吸ができない。走れなくなるのは呼吸ができないからです。

横隔膜が上にしっかりと上がることで、肺の中の血液と空気を押し出す。酸素を含んだ血液が心臓から身体全体へといきわたっていく。このことで身体のあらゆる仕組みがスムーズにうごくことになっていくというのです。私の身体が二七項目にわたって改善されたのはこの結果です。

健康体から病気をみていくという視点です。病気は氷山の一角にすぎない…。病気となってあらわれるまでの日々の生活：暴飲暴食や体の酷使、ストレスの蓄積、不眠等々の積み重ねが原因となって病気を発症したのです。この原因を一つ一つと取り除く。お腹を温め、深く長い呼吸を行い、上腹部を柔らかくしていくと、あらゆる病気が良くなっていくのです。この体験発表を八月二〇日、させて頂きました。

この画期的な療法を横井久美子さんに紹介するチャンスがなかったことが悔やまれます。一年遅かった…。しかし横井さんのご命日、一月十四日に私がクリニックを受診できたことに縁を感じます。「この世に生きたあかしを自分の力でできさみつけたい。カいっぱいいたたかいたい…あるひとつのものに使い果たしたい」と歌った横井さん。二十歳代の思いをずっと失うことなく生き切った人生。どうやら私にも、今回の病気体験を通して「ひとつのもの」が見えてきたように思います。